

Let's Play Classic

第1特集 グレードに役立つ！

エレクトーンで弾く クラシック

『のだめカンタービレ』やショパン生誕 200 年など、クラシックの人気の高まっています。エレクトーンでも、クラシック曲を弾く人が増え、グレード 5 ～ 3 級試験では課題曲をクラシック曲 1 曲で受験することも可能になり、ますます注目されています。そこで、改めてクラシック曲に親んでもらうために、クラシック演奏第一人者の森下絹代さんに「エレクトーンで弾くクラシックについて」を、また渡辺睦樹さんと内海源太さんにクラシックの魅力などをお聞きしました。

クラシック音楽をひとりで表現する喜びを……

エレクトーンでクラシックを演奏する意義を議論することがある。私の考えは、自分がクラシックを演奏し始めた当初から変わらない。つまり、問われるべきは“演奏そのもの”と“作品に対する意志”であって、楽器うんぬんではないということである。“演奏”という行為には、音作り、編曲、解釈など、演奏に表れるすべてが含まれる。それだけに作品に汗して、真摯な態度で取り組むべきであるし、何かの不都合を楽器のせいにするべきではない。

クラシック音楽は、取り組む人の音楽観によりいかようにも変わる。ひとつの作品が無数の多様性を持っている。作品自体が演奏者の内面に作用し、美の概念を養わせ、生きがいさえ与える。多くの人が、自らの人生を託し格闘し愛する価値のあるものである。人類の宝である作品、とくに管弦楽曲をひとりで表現する喜びは、エレクトーンでしか得られない。それをしないで送る人生は、大きな宝を得損なっている。

森下絹代

Classical Music